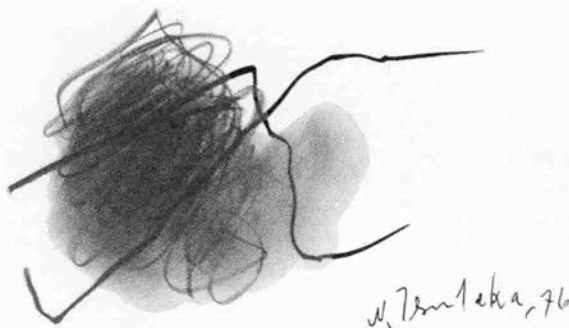


随 想

創刊15周年によせて



え・津高 和一

夢の

まち創りを

古林 喜楽

△神戸大学元学長▽



神戸っ子創刊のころ、五十嵐嬢が来訪。原稿をたのまれたのが、

そもそも私と「神戸っ子」との出会いであるが、あれからもう十五周年とは全く感無量である。

そのころは、新聞会館・国際会館・市庁舎もできてホヤホヤであった。もちろん六甲山トンネル・さんちか・高速道路・さんプラザ・二十六階のノッポビル・ポートアイランド・文化ホールもなかった。神戸大学もまだ六甲台に集まっていなかった。いわんや新幹線など思いもおよばなかった。須磨のきれいな海で存分に泳げたし、魚も面白いほど釣れた。こう思っておこしてくるとこの十五年の間に神戸も随分変わったものである。

「神戸っ子」が、酒祭りや阿波踊りへと神戸っ子連でくりだしたり、神戸祭りのものになったカーニバルを企画したり、イレブンPMへ出演したりして、私たちを慰めてくれたが、その間海はドブになってしまいうし、きな臭い煙が空をおおい、公害の続出で、泳ぐどころか魚が一時食べられなくさえた。夢のかけ橋一辺倒で道路は穴だらけ。深夜わが家へ帰るとき、上をむいて歩こうよどころか、下を向いて歩かなければ足を挫いてしまうようなさまになった。

幸い神戸で初めて宮崎革新市政が出現し、それから神戸も次第に

変わってきた。今では上を向いて歩けるし、須磨でも再び泳げるようになった。道路には樹木が続々と植えられ、芝生も増えた。本格的歌舞伎も見られるし、オペラも聞けるようになった。

ここで一つこの勢いに乗って、われわれの神戸を近代都市のモデル、欲をいえばパラダイスのようなまちにしてみたいものかと思う。例えば空地や火災で焼けたあとは全部公園に変えてしまふ。アパートやマンションの方がよいという人たちのために高層ビルを建てて移してもらい、あと地を片っぱしから全部公園にしてしまふ。神戸は地震の心配がないから高層ビルをドンドン建てる。公園だらけの中に住んでいけば庭などいらない。日照権の問題も消えてしまふ。神戸は山が多いから七割が緑だというけれども、あと三割の市街地の大半も、公園の緑にしてしまふ。海岸は数キロにわたる車も入れる巾広い防波堤にし、そこを太公望の釣り場にする。須磨一帯の海岸は白砂青松をとりもどし、沖の防波堤で汚れた海水をせきとめ、パイプ・ラインで明石海峡の深底のきれいな海水を導入する。

海あり山あり、山のかなたに温泉あり、まちの至るところにあるひろい公園では、こちらではママ

チャンパレー、あちらではゴルフのけい古、プールで泳いでいるものもあり、夏は木蔭でビールのジョッキを傾けているものもあれば、舞台の演奏にあわせて芝生の上でダンスに興ずるものもある。公園の樹々には小鳥がさえずりリ

スが走りぬけてゆく。四季の草花が次から次へと咲きみだれ、再度山ではないけれども、一度神戸を訪れるとふたたび神戸へ舞いもどりたくなるような夢のまち創りに、われわれ市民も腕をくんで協力する、というようなことにならないものであろうか。

神戸のシンボリックな街 コスモポリタンの

滝川 勝二

△兵庫トヨタ自動車株式会社社長▽



「神戸っ子」が十五年もと申しては、お叱りをうけるでしょうが——成長しつづけた努力に感心しています。昔ばなしになります

小泉君兄妹がおかあさんに連れられて突然訪ねてくださった時には、びっくりしました。この方面に何の知識もない私として、そんなことはやめなさいとか、また大いにやりなさいとかお話する自信はありませんでしたが、子供たちを希望する道へ進ませてやりたい親ごころを思い、何かまに合うことがあるなら相談相手になろうと思ったことでした。

時々考えるのですが、神戸の街は歴史的にいつて城下町ではなく、漁村が港の町として発展し、船乗りさんには神戸港の水がとても喜ばれたようです。太平洋戦争以前のことですが、アメリカ航路や欧州航路、そして上海航路など、大小の豪華な客船が毎日威勢よく出入りすることに波止場を埋めた人の波と歓呼の声がなつかしく思い出され、コスモポリタンの街の風情が神戸のシンボルでした。それが神戸のよさであり、また同時にもうさでもあったのでしよう。

自慢していた天然の良港も、今ではポートアイランドや六甲埠頭で補強しなければならぬ時代になりましたが、神戸と言えどもやはり港に特徴があるので、港を中心に街の発展を考えるのが本筋だと思います。昔の港は人と貨物の発着場所だったのに、今の神

戸は貨物だけの動きで、人は全部、羽田空港と言うことで、神戸の将来を考えると、このへんに決定的な運命を暗示しているような気がします。何とか世界中の人たちがK O B Eの名を忘れないように努力しなければなりません

「神戸は気候がよい。食べ物もおいしいし、ショッピングも楽しく景色も素晴らしい。しかし肝心のビジネスが今一つだ」という支店長さん達も少なくありません。

フアツション都市づくりが合言葉になっていますが、これだけで神戸の経済力が浮上するとは限りません。地形からいっても人口百八十万くらいを目ざすマスタープランから新しい神戸のバイタリティーを期待できるのでしょうか。

やはり神戸は港の発展、できることなら貨物と併行して人の発着場所であって欲しいと思います。

話は変わりますが、日曜日の午後、炬燵にあたって原稿を書きながらテレビを見ていますと、歌番組が多いのに神戸を歌ってヒットした曲はあまり無いのだといえます。が、本当でしょうか。もしそんなことだったら今年の神戸っ子は大いに発奮して神戸を歌ったヒットソングを世に出しませんか。

宮崎市長さんもお上手ですから理解して協力してください。

今こそ

飛躍する時

K O B E

竹馬 準之助

△竹馬産業株式会社社長▽



もう十五年になりますか。失礼ながら創刊号はともかく、何号まで続けられるのだろうかと思に浮んだ。というのも、神戸の市民の声を、姿を、この一冊にまとめ、月刊誌として継続するにはそれなりの企画と豊富な資料が必要であるはずだ。神戸というところは、比較的新タの乏しいところ。ことに神戸っ子は初物食いで飽きっぽい。これは創刊当時のいつわらざる私の印象であったように記憶している。

ところが毎月まちがいく発行されている。資料が乏しいといっても掘りおこせば次々とあるものだなと感じもし、敬服しました。しかし、これは金持ちの道楽仕事ではない。これだけのものをコンス

タントに出版するにはそれ相当の資金も必要はずだ。失礼ながら特別な後援者でもあるのかなと思ってもみたが、それもない。全く小泉一家の大事業である。果せるかな、資金ショートの時期がきた。私のところへ一時融資の申し出があった。この額はまことに小額であって、百万に満たない金子である。当然くるべきものがきたというのである。この種の事業には宿命というか、しかも誰もが一度は通り抜けねばならぬ道でもある。——私は考えた。神戸にこのような、神戸の生んだ私物、があってもよいのではないか。——気持ちよく用立てしたのである。この時が「神戸っ子」の一番苦しい時だったのである。その後二年位かかったのだろうか、全額返済いただいた。私はこの時点で「神戸っ子」はもう大丈夫だ、神戸に根を下した、本当に良かったという実感を受けた。

すでにその頃、神戸の商店を歩けば、これといった老舗には必ず「神戸っ子」が置いてある。私は街を歩きながらフト目頭が熱くなったことを覚えている。名も無い市井の一市民がこの「神戸っ子」と取組んで十五年。私はごく限られた一部の人間ではあるが、私以外に、未知の、この小誌に限りなきご理解とご協力をされたであろう

たくさんの方々には心からお礼を申し上げたい気持ちで一杯である。

ただここで「神戸っ子」に申し上げたいことは、この誌も一つの機を迎えられたのではないだろうか、ということ。これからが本当の第二の「神戸っ子」というものを考える時期がきているように思う。神戸を愛する人々によって今後の「神戸っ子」の歩み方についての意見をまとめ、さらに飛躍する「神戸っ子」の誕生を心からお祈りする。

神戸と

共に歩んで 15年

吉川 進

△風月堂社長▽



小泉君から雑誌発刊の相談を受けたのは、その思い出の鮮明さからいつてついでこの間のように思うのだが、このたび創刊十五周年を迎えると聞いて今更ながら月並みではあるが、年月の流れの余りに

早いのにとまどうのであり、またよくここまで続けてきたものだと感心するのである。

私と小泉君との出会いは、それ以前に逆のぼる。確か、最初に目に映った小泉君の姿は紺の着物に袴姿であり、場所は謡会の舞台の上であった。小泉君は当時、関学大の謡曲部の重鎮であったと思う。私はたまたま謡曲を習い始めていて、師匠が同じくした因縁で、師は能楽一家として斯界に重きをなす藤井久雄先生であった。

雑誌の編集発行は至難の業であることは門外漢の私にも聞かされていたことであった。しかし、いろいろおつき合っている間にこの男ならやり遂げるのではないかと思った。相談を受けて、及ばずながら、微力ではあるが、協力させていただいたのである。私の予想も天気予報よりやや正確であったことを有難く思う。

しかし、当事者としては、そんなのん気ことをいっておれないだろう。先立つ資金を始めとして、スタッフの確保、編集の苦勞、渉外関係など多くの壁をよく乗り越えてきたものと思う。妹さんをはじめ、スタッフ一同が小泉君を助けて努力されたことは想像にかたくない。「神戸っ子」という誌名を聞いた時も、ユニークな名称ではあるが、ちよつと軽る過ぎない

かと懸念したが、一五年の年功であらう、板についてしまった。

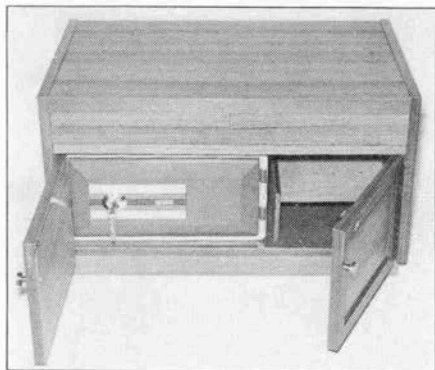
当時、成功した業界小冊子「あまから」があった。私は商売柄、愛読させてもらっていたが、肩のこらない、それでいて何時の間にか味の世界に引き込まれる楽しい品格のあるものであった。ずいぶん好評を博していた。

小泉君の編集方針はどこにあったか。雑誌名の通り神戸をテーマとして文化、芸術、スポーツ、経済、商業に至るまで巾広い範囲にわたって取材し、今までになかった未開の境地を開発したことはなかなか立派であったと思う。神戸を愛し誇りに思う熱心な執筆者の先生方が大いに協力されたことも成功の一因であらう。

根底はあくまで「コウベ」である。他の都市にみられない「コウベ」の良さを掘り下げ、神戸を見直し、将来の神戸の発展にこの小冊子が役立つことを願うのも私ひとりではない。また地理的にも文化的にも、商業的にも過去の神戸を探索し、現状を直視し、未来に夢を描く、神戸の姿をあらゆる面からとらえ、総合した誌面を創り出していただきたいと思う。

落ち着いたなかに、地味な、渋さのなかにもファッション都市神戸が躍り出る、神戸に根を下ろした雑誌にしていただきたい。

美術 古美術 剣 骨董 刀 書画



宝石、美術品の保管に——
軽量小型耐火金庫

¥ 57,000

(防犯用電子ブザー装置付)

鑑定 買入
刀剣研磨その他工作
一カ月仕上 是非ご用命下さい

神戸市生田区元町通6丁目25番地

刀
古
骨

美
術

剣
術
董

元町美術

〒650

TEL078-351-0081

マーガレット



ゴルフをはじめ風月堂の七つの味を
一缶にせいぞろいさせた
楽しい詰合せです。

●A…¥2000 ●B…¥3000 ●C…¥5000

(ゴルフ、プティーゴルフ、チョコレートパビヨット)
コウベビアー、レインボーキャンデー、サプレ



神戸 風月堂

神戸市生田区元町通り3丁目195

TEL. (078)391-2412・321-5555

□れんさい随想□

河上丈太郎と阪本勝

関西学院と神戸 △2▽

久山 康 △関西学院院長▽

え・石阪 春生

日本社会党の委員長であった河上丈太郎先生は神戸市民の社会的良識の高さを示すシンボルとして、幾度も最高点で衆議院選挙に当選された。私は先生に親しくして頂いていたので、選挙の応援演説に出たこともあった。どの会場でも若い聴衆のほかに年取った労働者や庶民の人々が詰めかけていて、先生に尊敬と親愛のこもった眼を向けていた。その度に私は神戸の庶民に直結した政治家だという強い印象を受けたのである。純潔な理想主義者であった先生の選挙は、全く文字通りの公明選挙で、法定の選挙費用を下廻るといふ話も聞いたが、最高点で当選された夜、私がお祝いに上ったところ、先生は関西学院での教え子の経営する中華料理店の二階で、数人の教え子に囲まれ、



奥さんと二人ジュースを前に坐っておられた。私は田舎の村会議員の当選風景でもっともっと盛大なのにと驚いたことがあった。しかし先生は東京の出身であり、根っからの江戸っ子であるのになぜ神戸っ子になったのか。それは関西学院があったからである。

河上先生は大正四年に東大の法学部を出られて同七年に二十九才で関西学院に赴任され、十年間高等学部で教鞭を取られた。先生は自らの精神的系譜を語られて、「私が今日の自分をつくることのできたのは、三人の人のおかげだ。内村鑑三先生から信仰を、新渡部稲造先生から人格主義の教えを、高野岩三郎先生から社会科学の眼を、それぞれさずけられた。だが、だから一番感化を受

けたかといえ、それはやはりオヤジからだった」と言われたことがあるが、尊父というのは東京芝の材木商で、毎朝芝公園の木立の中で一時間余り聖書を読み祈りをするという篤信の人であった。こういう生い立ちの人であったので、国立の学校にない学院のキリスト教による人間教育が、先生の情熱を触発し、学生への熱愛となったのである。

しかも先生は授業のかたわら賀川豊彦先生たちによって設立された大阪労働学校に奉仕され、また大山郁夫氏の政治研究会という無産政党準備会の神戸支部長になられ、次第に社会運動に接近してゆかれたのである。そして昭和二年には学院を辞任して神戸で弁護士を開業され、日本労働党に入党して翌三年第一回の普通選挙には神戸から立候補して見事に当選された。それ以来逝去される昭和四十年まで神戸は先生の選挙区であり、第二の故郷となったのである。

学院の高等学部は大正十年に文学部と高等商業



1929年、阪本勝氏が描いた河上丈太郎氏の肖像画（油絵） 原画は現在河上民雄氏が所蔵

部となり、河上先生は文学部の社会科で教鞭を取られたのであるが、そこには新明正道氏のような学究とともに、松沢兼人氏のようにやがて河上先生の後を追って政界に進出した人も教鞭を取っていて、社会的政治的関心も高揚していたのである。そういう状況の中に阪本勝氏が昭和二年に毎日新聞を退社して、社会学科の講師として赴任して来たのである。そして阪本氏の生涯を決する出逢が起った。それは河上、賀川両先生との出逢であった。

「この美しく静かな学園で、私は世にも不思議な人物にめぐりあったのである。その名を河上丈太郎という。歳は三十七、八の若い教授であった。どことなく飄々としていて口数も少ないが、妙に学生の信望を集めていた。」こう阪本氏は『流水の記』で回顧している。この河上先生から県会議員選挙への立候補を勧められ、さらに学院に関係の深かった賀川豊彦先生に勧められて決意するのである。「学園のポプラがゴッホの絵のように天にむかって燃えあがっていたある日」、賀川先生はポプラ並木の下を散歩しながら「生きた社会の本を読めよ」と勧められ、遂に日本労働党から立候補し、賀川、河上両氏の応援によって若冠二十七才の阪本氏は、神戸市から最高点で当選するのである。こうして県会議員から衆議院議員、尼崎市長、兵庫県知事と阪本氏は第四代のベーツ院長を尊敬し、「世の中にはかくの如き堂々たる風格があるのかと思って」、自分の偶像となったと語り、また「ベーツ先生のいた関西学院の芝生を歩いて来るといい気持ちになる。行ってきたとまた元気が出て、県庁で頑張れるんだ」とも語ったのである。

□ずいそう

南米の旅

——ラテンアメリカの文化

新谷 秀夫 〈彫刻家〉

秘宝や食糧を求めるスペイン人の探険家たちにとって黄金峡としての目標となり、古いメキシコの文化やペル—の文化が侵略されることになってしまったが、そのために土俗的な古い文化が早くから世界に紹介され、別の意味での新しい文化の開花をみたということも言うのである。ラテンアメリカは、主としてスペイン人やポルトガル人など、ラテン系の民族によって支配され、アメリカ・インディアンと結ばれて生れた混血と、その混合文化によって一つの文化圏として成形された大陸である。だが、北米・中米・南米を包含したこの新大陸は、必ずしも統一された文化圏ではなく、低地と高地、狭い地域と広大な面積の気候が独自の文化を生み、比較的人口の密集したメキシコとアンデス地方のマヤとインカの文明に開花を見たのであるが、その地域的な風土に住む人種の生活文化がはなはだしく異なるのがまず私たちにとって魅力なのである。

一昨年の暮には希望のメキシコ行きがなくなったが、その機会を利用して、サンパウロに住む若林さんとニューヨークの竹田さん、両家を突然に訪問して驚かせ



ブラジルの新興都市、首都ブラジリアの教会。ふきぬけ建築様式をとり入れ、地上には屋根だけが見え、地下の入口のほうへ向う人たちが見える。

る計画であったがマヤ文明の魅力に引かれてしまい、帰国がせまる間際まで訪ね巡り、ついにその計画は断念せざるを得なくなってしまう。今回のブラジル行きでは元気で明るい若林夫妻に会うこともでき、一昨年の目的は果たすことができたが、帰途、アンデス地方のインカ文明に触れ、またまたニューヨークの竹田さんを訪れる機会を失ってしまったのである。今年の一月十五日に帰国してみると、竹田さんから、今度こそ帰途に立ち寄るようにと、期待の手紙が届いており、何とか日程をきりつめてでも訪問すればよかったと、今となっては多少後悔の念にかられているが、まだカリブとアマゾンを残している、次のニューヨークが楽しみである。

ところで、今回のブラジル行きは、その若林さんから十五年ぶりに神戸で個展を開催したいとの手紙を受けとったのがキッカケとなり、その打ち合せの文面に神戸とリオ・デ・ジャネイロとは姉妹都市の関係でありながら今まで文化の交流が全くなかったことが日系市民のあいだで話題になり、せっかく私がブラジルへ行くのだから神戸とリオとの文化交流の橋渡しの役目を務めて欲しい

という依頼があったのである。

神戸市からの使節として派遣されるのではなく、民間としての任務ではあるが、姉妹都市間のキズナを結ぶ一役となるので、まず宮崎神戸市長のメッセージと、神戸芸文の小倉会長からリオ市写真連盟あてのメッセージ、今後の文化交流の提携と協力を期してブラジル最大の新聞、ジャーナル・ド・ブラジルには神戸新聞光田社長のメッセージをそれぞれ持参ということになり、そして文化交流が目的であることからメッセージだけでなく、作品を持っていかねばならないが、彫刻にしろ絵画、工芸品にしろ運送費やその手間にかんりのエネルギーが費やされるので、比較的手軽に持って行ける写真作品とし神戸芸文の協力を得て、作品の応募者は神戸市在住に限って公募した写真作品四十三点を持参し、現地で親善を目的とした写真展開催。それに市の公園部長の計らいで「日本産の木の種」を持参することになったが、これはその種から芽が出て、育ち、そして茂っていくことから、同じように両市間の文化の芽が出、育ち、茂っていくことに願いをかけたのである。そんなことからブラジルでは観光どころではない忙しさになってしまった。

その交流に關しての任を終えて、次の目的地のスペイン的な町であるアルゼンチンの首都、ブエノスアイレスに移動した。まず音に聞こえたアルゼンチンタンゴの発祥の地、カミニートを訪れる。ここはすでに廃港となっているが、さびれかけたわびしい町並から聞こえてくるリズム、それがまたタンゴ発祥地の風情をかき立ててくれるのであった。そこから期待のインディオの国、ボリビアの首都ラ・パスに着く。ここは標高四千呎の高地である。空から突然に慣れない環境に飛び込んだのだから無理もないが、酸素の少ない空気のため、まず息苦しく行動がにぶる。頭痛がはげしく食欲もない。どこを見ても帽子をかぶった珍しいインディオの女性が歩いてゐる。だが興味どころではなく翌日も悪条件に慣れるためには一日中寝るより仕方がなかった。翌朝、目が醒めて

コカティで喉をうるおし、栄養を取るためにスープを頼んだ。熱くないスープである。酸素不足のため沸とう点の関係から熱くならないそうである。そういえば昨夜の風呂もぬるい湯であった。

ラ・パスからペルーのクスコへ向うのには、チチカカ湖を越えねばならない。湖を横切って一直線に渡って行く船では十時間、湖の周囲を走るバスを利用すれば二十五時間、船で渡ったところで巨大な湖、四方八方水ばかりでは面白くない。時間はかかるとしてもバスに乗ってアンデスの地方の風物を見ながらの旅のほうがはるかに楽しいであろうとバスに乗り込んだ。ほとんど舗装されていない路を走る。五日ほど前は夏であったが、アンデスの高地では雪が積っている。プーノから程遠くない地点に「太陽の門」の遺跡が謎の文字を刻んでインカ文明を誇っていた。ますますインカ帝国の奥深くに侵入していく自分自身に震えるような興奮を覚えた。長時間の乗物がさほど苦にならないうちに待望のインカ帝国時代に首都であった古都にたどりついた。ここも高度三千四百呎である。古典のたたずまいを残した静かな町であるがやはりスペイン風な田舎町の風情がある。この町から汽車で四時間、高度三千六百呎の山の頂上に残された石の文化のマチュピチュの遺跡を訪ねるが、期待通りの素晴らしい息苦しいのも忘れてしまっていた。

次はいよいよアンデス最後の都リマである。スペイン人の略奪から脱がれた黄金のコレクションを誇る黄金美術館、それに個人の蒐集と発掘品でしられた天野美術館やインカの歴史と工芸品を観せるナショナル美術館、市の郊外のプレ・インカの遺跡など古代インカの文明を知る宝庫といえる町である。

慌しい旅では到底インカの文化を探ぐることは出来ないが、メキシコのトルテカ、アステカの古代マヤの文明とは異質ではあるが、土俗的なその魅力にひかれ、日数が足りないのが惜しまれてならなかった。



ファッション都市は ショッピングエリアから

増本

直美

△一九七四年度代表タイン神戸▽

坂野

通夫

△ファミリア社長▽

岸野

利男

△シンワ洋装店社長▽

渡辺

利武

△マキシム社長▽

吉岡

潔

△ヨシオカ社長▽

小林

新二

△元町バザー社長▽

★ウィンドーショッピングができる町に

本誌が発刊当初から探究しつづけてきたものが、
“神戸らしさ”の文化の発掘であった。文化を即生
活とみると、神戸に住む人々のライフ・スタイルこ
そ、神戸文化である。この神戸らしさを、さらに色
どり、楽しくしていくことは、まさに “文化開発”
そのものではなかるうか。

“ファッション都市・神戸”はそのような環境の
なかで息づいている。

そこで、ファッション都市・神戸の本質的な理解
——神戸らしさの開発の一助にと、キャンペーンを
繰りひろげることが、本シリーズの趣旨である。

今回は、神戸のショッピング・エリア——さんち
かタウン、セクター街、トアロード、大丸前、元
町——の現状の問題点と今後の展望とを語る内容で
ある。

坂野 ショッピングエリアは、東からさんちかタウン、
セクター街、トアロード、元町というふうになっている
わけですけれど、どうも線というか帯だけで、たまり場
がないわけですよ。この間も元町を歩いてみまして、
三越まで行ってみたんですよ。すると向こうへ行つて折
り返しになってくるので、あそこにかもうちよつとた
まり場というか抑揚をつけたものがあればと思つたん
ですよ。逆に西から東へと歩いた場合の東の端にもです
が……。何となく、そのまま引き返すんじゃないと思
いますね。元町の方は随分と頑張っていたので、今、四丁
目位までは、うんと人が増えましたね。
小林 そうですね。本当に帯だけという感じで、憩いの
場が何一つないというわけですよ。



増本 直美さん

坂野 やっぱ衣食住のトータルルククというものが抜けているんじゃないかと思うんですよ。

小林 そうですね。アミューズメントという面ですね。

坂野 というのは、子供洋品とか婦人用品では皆さんトータルルククというものを非常によく考えておられるわけなんです、生活に持ち込んだ時に衣食住というものについて、多少ちぐはぐになっているんじゃないかと思うんです。それと休日という問題がありますね。ウィンドーにはシャッターが下りますから、何となく神戸で休日につかかってしまうとうどうにもならない。町がさびれてしまっている。

小林 うちの商店街はそれを課題にしているんですけど……。夜でもウィンドーショッピングできるように、せめて八時か九時位まで照明をつけていたいと思うのです



坂野 通夫さん

が……。

坂野 そのへんのところを小林さんの方で音頭をとっていただけたら、我々も協力いたしますから……。今のまでは夕方に来られた方は、どうにも仕様がないうね。小林 外国のようにウィンドーを明るくしてそれがある程度の時間までやりたいですね。新しくできた「ヌーベル・サノヘ」がそういう風にやっていますね。大丸前では「永田良介商店」がやっていますし、だんだんとそうならないといけないですね。

坂野 もう少し、それがまとまるといいんですけどね。そうになると旅行者でも夜、ホテルでウロウロしているんじゃないかって外に出ますからね。

吉岡 ウィンドーショッピングだけでも次の買物につながるわけですから。今度のセンター街の新しい建築では、そういうことは加味されているんですか。

岸野 町ぐるみでそういうことをするのは無理なんです。さんプラザもセンタープラザもできていますが、その中では、「ベニヤ・エルペ」がシャッターを下ろさず遅くまで灯りをつけていますが、本当にこく一部ですね。まあ、それを強要するわけにもいきませんし……。それに、イメージづくりという点でいうなら、さんプラザにしろ、センタープラザにしろ、デパートというならメインになるべきところに、大きなエレベーターがあって構造的に見るなら完全なショッピングビルとはいえないのではないかと思うわけです。そういう意味では、さんちかタウンはうまく統一されていますが、他は組織がないからまとまりがつきにくいんです。特にセンター街は戦後の街で、これを一本にまとめるということは並大抵のことではないです。元町はその点まとまっていますけれど……。

吉岡 まず三軒でも五軒でも、ショーウィンドーを夜もオープンにし出すと、またお隣り、またお隣りという具合に盛り上って行くんじゃないでしょうか。

坂野 最初はダメかも知れないですが、ウィンドーコン



岸野 利男さん



渡辺 利武さん

クールでもやって参加していただくようにするとか、具体的にやるには、そういうことから始めないと仕方ないように思いますね。

小林 そういえば、昭和三十年頃まで、デイスブレイコンテストが毎年ありまして、私とも参加して一生懸命やりましたよ。

増本 ウィンドが楽しくなるっていうのはとてもうれしいことです。時々大阪へ行ったりもするのですが、地元のせい、やっぱり神戸の方が歩きやすいように思うんです。でも先ほどのお話にもありましたが、東西に带状になっていて集まる所がないように思います。昨今の頃ですが、ニースのお祭りでバリへ行ったのですが、あちらは凱旋門を中心に放射線状になっていて、歩いていても、とても楽しかったことを覚えてます。いずれ

にしても、私なんかの買物は、ウィンドーショッピングが多いので、ウィンドーが楽しくなるのは、本当にうれしいですね。

坂野 実はこの間、楽町を通りましたら、えらく町幅が広いなあと思っただけです。なんかすっきりしていると思ったら両側の電柱がないんですね。ですからやっぱり、ショッピングエリアとしては、将来、配電設備が地下に入らないとエリアとしての形態をなさないと思うのですが……。外国は、写真で見てもほとんど電柱がないですからね。

小林 電柱は向こうにはないですね。

坂野 電柱があるからそこに看板をつけるんです。

岸野 その上それを有料にまでしたりしていますからね。そういう点ではさんちかの「インフォメーションこうべ」ですか、ああいう場所を思い切って、あのような形にしたっていうのはりっぱですね。

渡辺 トアロードもだいぶ店がまとまって来て、いろいろな計画もあると聞いていますが、電柱は困りますね。

神戸のメインであるトアロードからでもうまくなる。ことができれば結構なことだと思います。それとトアロードの場合、車が両側に止まってしまっただけで、ウィンドを見ていただく場合に支障があるようなので、これもうまく整理できるといいですね。

吉岡 これから新しくできる建物は、だんだんと屋並みもそろって来ますが、今のところではその屋並みに多少デコボコがありますから、美観という点では、外国の町なんかと比べますと大分違ってきますね。

岸野 鉄筋コンクリートで同じような大きな四角いものばかり並んで果してこれが近代化なのかという疑問を感じますね。やむを得ないとは思いますが……。

増本 センター街も工事がすすめられて、センタープラザのようなビルの中にお店が入ってしまうと、お店の個性というものが失われてしまうような気がするんです。もちろん、そのお店で売っている商品に個性があるのだ



吉岡 潔さん



小林 新二さん

といわれればそうですが、それは中にゆっくり入ってみたいとわからないことで、神戸の人はそれでもいいかも知れませんが、他から来た人にはやっぱりお店の構えに個性がある方が、またそれを楽しみにいらっしやるんじゃないでしょうか。神戸の街が近代化されて美しくなるのはいいいことだと思いますが、それによって神戸らしさが薄れるんじゃないかという気がしますね。ですから、そういうことを考えた上での近代化というものを、これから考えていただきたいなあと感じます。

岸野 そうですね、我々も実際そう思いますね。

坂野 構えも画一になって来た、商品も画一になって来たということですよ。

岸野 鉄筋の同じような構えが並んでしまっって、まあ中に入ると営業商品が違っていたりしますが……。

小林 ビルもいいけれど、一軒店舗もそれなりにいいわけですよ。

坂野 ホツとするんです。

小林 自分が元町に住んでいて勝手なようですけど、元町に帰るとヤレヤレと思いますよ。一軒一軒顔があるでしょう。コンクリートと鉄筋だけが店じやないんだから。

吉岡 北野町界隈の店にしても、売っている商品というのは特に目立ったものではないと思いますが、周囲の環境が、例えば坂があつて緑があつてということで、若い人達に神戸らしさを感じさせるんでしょうね。

岸野 さんちかの「インフォォーメーションこうべ」もかなり人気を呼んでいるようですが、商店街でああいう場所を持てたらいいとは思いますが。現状でも、都市計画とかで道幅を広くするために二割五分も販売面積を削減されるということで、これは大変なことなんですよ。

今度できるセンタースタラザ西のビルの七層は全部ショッピンングエリアなんです。となると、相当に神戸にお客様を引き込まないと、店はふえても消費人口がふえないという風になってしまいます。阪神間の消費人口を神戸に引きもどすためには、相当強力な吸引力がないといけない。まわりの商店街からは、しよっちゅう三宮過密化反対をいわれますが、しかし、神戸に客を引こうと思つたら三宮に何かポイントを作らないとどうにも仕方がないと思うんですよ。

渡辺 北野の方にもいろいろ新しくできるようで、山手の方が開けてくるというのはトアロードとしては大変結構なことなんです……。

小林 そうですね。やはり線だけでなく、点も必要になりますからね。

坂野 それと、これからは駐車場の問題が大きく作用してくると思うんですよ。最近元町の通行人がふえたというのは、裏に駐車できる場所があるからです。

小林 ちやうど三年前の調査と今年の調査では通行量が二倍になっていますよ。

岸野 それとセンター街が、今、改装工事していますからまとまりのないセンター街よりも元町の方に行くんでしょうね。元来、センター街は買物がしやすいということなんでですけど、神戸らしさという点では元町の方がずい分上でしょう。

坂野 これからは、神戸へ行ってそこのお店へ行かないかや買えないという品物を各店が用意しないとだめですね。センター街も元町も同じ品物を置いているというんじゃないかと思うんですよ。

岸野 やっぱりオリジナルなものを用意しないといけないわけですが、その意味で、神戸の有名店が大阪、京都、東京などに店を出すと、わざわざ神戸に来なくても、それぞれの所で買えることになるので、どうしても神戸に来て下さるお客様が減るのじゃないかと思うんですよ。だから、神戸一本でやっていただきたいと思うわけなんです。東京や大阪でたくさん売れて、神戸の本店にその売れ残りが残るというんじゃないか、神戸に客は引けませんよ。

渡辺 しかし、神戸のオリジナルといいますが、ヘッドというものは神戸にあるわけですから、他の地区に宣伝するということ意味で外に出すことも必要なんですけどね。

★これからは変る、ショッピングゾーン

坂野 ザルツブルグは一度しか行ったことがないのですが、なんか宝物を捜すような感じで、露路の中にボツンと店が一軒あったりして非常に楽しい。それと、ウィンドーというものは店の顔ですから磨き上げてますよ。そして、肉屋にしてもチョコレート屋にしても絵になっているんですよ。そのへんを見習ったらいんじゃないかと思えますけどね。

小林 ヨーロッパなんかでは、今までのショッピングエリアを度外視して、例えば原宿や六本木のようなもんなんですが、ハンブルグのアルスタ湖の附近にお店ができ

ているんですよ。それが全部ファッションの店なんですけど、いわゆる今の朝食スタイルの物ばっかし売っていて、他にアンティークなものとか、手作りのネックレスなんかを置いていて、それはブレイメンにもありますし、昨年バンクーバーに行った時も倉庫跡にできていたね。れんがの倉庫跡をそのままショッピングセンターにしているんですよ。

吉岡 じゃサンフランシスコの例の……。

小林 ええ、例のウーズセンターですか。あそこも缶詰工場の跡を使って、非常に成功していますね。そういうふうに、今後の街づくりというものは既成の街のなか以外に発展があるんじゃないかと思うわけです。ですから型にはまらない、倉庫跡なんかを利用することが若い人に非常にうけるんですよ。そういうものが、メリケン波止場なんかにできたっておかしくないわけです。外国ではあちこちにできていますよ。ハワイにもできて名物になっています。暗い所に裸電球をつけたような感じで、そこにも毛皮を扱う店があったりして楽しい造りをしていきます。ですから、ビルを建てて商店街を作らないと商店街にならないという既成のものから脱したものが、あちらではすでに考えられているわけなんです。まあ、日本のそういうものが、原宿とか六本木なんかかも知れませんが、既成の街でない所にできるといふことですね。

吉岡 人がたくさん集まった所で買物をするよりも、そういう所で買物をした方が楽しいでしょうけれど、ただ、楽しいだけではなく採算が合うかどうか問題ですね。
岸野 向こうには趣味の店というのか、これで採算が合っているのかと思うような感じのお店があるんですよ。

渡辺 採算面というのがやはり基本になるのはいうまでもないのですが、品物だけを対象としたショッピングに加えて、散歩しながらとか、緑の中とか、れんがの舗道とかいうような街のムードといったものが要求されているという感じがしますね。

岸野 外国はどこを歩いても楽しさがありますけれど、日本はソロバン勘定が先に出て来ますね。

坂野 その楽しさということで、以前から考えているんですけれど、神戸というのは造船と商館と海運が中心になって発展して来たと思うんですが、そういう関係で古くから使っていたような物を集めて、何か記念館のようなものができたら人が見に来るんじゃないかと思っています。たんですけれど……。

小林 木曜クラブが一つのキャンペーンとして、朝日会館から三菱銀行の前までちよとしたゾーンを作るんですよ。リスの置物を置いたりして……。それでこの次はどうしようかということで、元町二丁目と大丸を結んで、メリケン波止場あたりまでを何とかしようと考えているんです。いよいよ唐人町（南京町）もできることになりましたし、そのつながりとしてメリケン波止場への散歩道とを考えているわけなんです。昔、私たちはメリケン波止場に涼みによく行ったもんですよ。ですからあそこはいい場所なんです。放っておくにはもったいないですからね。物を売ることだけがファッションじゃないんですよ。

岸野 物を売ることだけというのは味けないですからね。

小林 ファッショナブルなものを売るというのもファッションですけど、地域がファッショナブルでなければならぬし、住む人にもファッション性がなければいけないということですよ。ですから、神戸が割合そういう性格を持つ街だけにそれをうまく活用することは販売にもつながりますし、商品のイメージにも反映させることができると思いますね。

岸野 神戸の匂いというのが、だんだんと消えて行くような気がしますね。

吉岡 情感の問題ですねえ。

岸野 なんか殺伐としていますねえ。もう少しうるおいが持てませんかえ。

渡辺 神戸という町は、全国的に興味を持たれている町だと思うので、何としてでも、外からせいぜい来てもらえるように持っていかなければいけないと思いますね。

★うるおいのあるショッピングエリアを

増本 商店街というのは、ただ単に買物だけをする所じやなくて、人と人との触れ合いというか、もつと人間的なものをも求めて行くと思うんですよ。例えば、自分一人で寂しい時なんか、街へ出て大勢の人がいるんだというようなことで……。ですから経営者の方は赤字が出ないようになければと第一に思われるでしょうが、私達の側からすると、やっぱり憩いのある商店街というのを望みますね。まわりを見てもビルばかりというのはなくて、緑もあったり、さんちかの「インフォメーションこうべ」みたいなのもつとたくさんできると楽しくなるんじゃないかと思っています。

岸野 私達もそういうことを望んでいるわけなんですけれど、実現することは非常に難しいですね。

小林 もともと戦前の元町という所はショッピングするところじやなかったんですよ。いい物を着たら元町へ着て出たいとか、インド人がサリーで歩いたり、牛みたいな大きな犬を連れて英国人が、一丁目で水割りを一杯飲んで六丁目まで行って帰って来て、また一杯飲むというふうだったんですよ。そういう人達が元町を歩いたんですよ。元町を一日に一度歩かないと眠れないという人がいたんですよ。本場にファッションの町だったと思うんですよ。外国のいいものが手に入り、一度これを身につけてどこを歩こうかと思ったら、元町を歩いたんですよ。一つの舞台だったんですね。パーパリーのコートを買ったら寒い冬でもそれを着て歩いたり、一つの見せ場、神戸のファッションのステージだったんですよ。ところが今はただ、ファッションのものを売る町になってしまったんです。

渡辺 神戸に来たら楽しいんだというようなものが欲しいですね。

吉岡 ショッピングされてるお客様とお店の人が立ち話をしている光景なんかまずないですよ。もう買物、買物という感じで。

小林 昔は、元町へ行ってアイスクリームを食べようとかソーダ水を飲もうとかといったゆとりというか、歩くことを楽しむということがあったんですね。いいネクタイを買わなきゃいけないとか、そんなことじやなかった。当時のファッション性というのはそういうことだったんですよ。

坂野 なんかもつとゆったりとしてましたね。そういう自然な落着きというものがどっかに欲しいですよ。

小林 元町一番街の今後の企画としては、四、五年先を目標にしてサイドアーケード式のを計画しています。両サイドを高いアーケードにして、昼間は空が見えるように真中をあげ、雨が降ったら両サイドをあげられるようなものを考えているんですが……。それと、夜のウインドーを明るくしようじゃないかというキャンペーンをやっています。これは、今度新しく改造されるお店が二軒ほどありますが、殺風景なシャッターをファイルに変えるということで承諾を得ています。おいおいそうやって行くと思います。

岸野 センター街は今、大変難しい時なんです。どうして楽しさを出すかということまで仲々考えられませんが、せめて夜のショッピングができる店構えにしたいということと、遊びの場を何とかしてとりたいということです。

坂野 アメリカでは二百年祭といったネクタイから何から何までそれで統一していますね。それからヒントを得たんですが、神戸に行かなきゃ買えないというものを作らなければならないと思います。で、そういうものを人が多勢集まる神戸まつりなんかとひつつけることで宣伝にもなるし、たとえ実績が上らなくてもあとと残るんじ

やないかと思えますね。まあ、一口に物を売るといっても、相手が満足し、また買いに来たくなるような売り方をするといいのは大変難しいことだと思うので、KFKのメンバーは、そのへんのところを徹底してお互いに切磋琢磨する必要があると思うんです。

渡辺 トアロードは、あのようになだらかな坂道になっていますので、パリのシャンゼリゼと似通ったものにしたかなあと思っています。トアロードには変わった街の雰囲気がありますよ、ということでトアロードへの誘致を強めたいと思います。昭和の二十五、六年頃は、店並みなどもアンバランスで、運営もなかなか難しかったわけですが、最近では、かなりそれらのことも変わって来て、費用捻出の面でも以前からすると大分違っているので、高架をはさんで陸橋を作るなどして、お客様への呼びかけを積極的にやっていけたらと願っています。

吉岡 大丸前は一っだけ根本的な問題がかたづけば非常にたくさんさんの夢があるんです。というのは、大丸と大丸前商店街の間の道路の交通問題なんです。あの道路の交通を規制して、全部遊歩道にできたら、花だんや緑やベンチなどを置けるし、また大丸前商店街は地形がちやうど島のようなになるので、そこだけ浮き上って見えるような夜の照明を考えたりしているんですが……。大丸前には比較的高級品を置いている店が多いので、そんなふうにしてなるべくたくさんのお客様に見ただけならと思っているわけなんです。その他、アーケードも賛否両論ですが、あれも高い所にあれば決して悪くはないと思うので、四階か五階の高さの所に大丸から商店街に真中を自動開閉できるアーチ型のものをかければ、その下に広場もでき、それがちやうど三宮と元町の間の間に位しているの、いろんなつなぎの役目を果たすのではないかと思うんですけれど……。ただ根本的に交通問題がありますので、当面、皆さんの協力を得まして何とかその規制を実現させたいと思っているわけなんです。

(オリエンタルホテルにて)

ウシオ工業㈱

取締役社長 牛尾 吉 朗
神戸市葺合区浜辺通5丁目2の1
神戸商工貿易センタービル18F
TEL (078) 251-1651(代)

田崎真珠㈱

取締役社長 田崎 俊 作
神戸市葺合区旗塚通6の3の10
TEL (078) 231-3321

オールスタイル㈱

取締役社長 川上 勉
神戸市生田区伊藤町121
TEL (078) 321-2111

㈱ワールド

会長 木口 衛
神戸市葺合区八幡通3丁目1の12
TEL (078) 251-5311

カネボウベルエイシー㈱

取締役社長 稲岡 必三
神戸市生田区三宮町1丁目43番地
TEL (078) 331-3318

㈱ベニヤ

取締役社長 松谷 富士男
神戸市生田区三宮町1丁目54
TEL (078) 331-5585

モロゾフ㈱

取締役社長 葛野 友太郎
神戸市東灘区御影本町6丁目11番19号
TEL (078) 851-1594

入 船㈱

取締役社長 小泉 進 吉
神戸市灘区新在家北町1丁目1-19
(阪神電鉄新在家南) プリコビル3F
TEL (078) 851-3191

神戸地下街㈱

さんちかタウン・サンこうべ
神戸市生田区三宮町1丁目1
交通センタービル8F
TEL (078) 391-4024(代)



キャンペーン「ファッション都市神戸を考える」の
企画は以上9社の提供によるものです。

□ある集いその足あと

K・F・S

中原 武志

△デザインルーム・ナカハラ
K・F・S・会長▽

K・F・S（コーベ・ファッショ
ン・ソサエティ）四十九年六月
の誕生ですから満一才と九カ月の
可愛い盛り、といいたところであ
るが、百数名の会員は、神戸のフ
アッション業界、婦人服、紳士服
子供服のメーカー、小売、オーダ
ーなどの服飾各界、シューズ、洋
菓子、家具、美、理容など、およ
そファッションと名のつく各業界
の指導者、幹部級の方達ばかりで
可愛いなどとは、とてもいえず
すが、その持っている夢はとても



K・F・S理事会風景

大きく美しいのです。"神戸の
街をファッション都市にしよう"
と大きなそして漠然とした目的に
賛同してできたのがこのグループ
です。"ファッション都市化"が過
熱していく中で、どのように運動
をすれば良いかとまどいました
が、"ファッション都市化は百年
の計私達はその捨て石になろう"
と、まずは気長に取組んでいる次
第です。

現在までに行なった主な事業は
ファッションフェアへの参加
（昨年は事情で不参加）・ファッシ
ョンパザールへの協力・神戸まつ
りへの協力・ファッションパーテ
ィの開催（三回）これは会員と一
般の方の交流会・現代衣服の源流
展へのバスツアー・K・F・S通
信の随時発行（月に一回程度）・
月刊神戸つ子にK・F・Sのペー
ジを二頁設けてキャンペーン活動
・月一回以上の理事会・昨秋、婦
人会館に於ける"女性のためのフ
アッション講座"の開講（服飾、
シューズ、インテリア、洋菓子な
どの講座で六回）などを行なって
参りましたが、メインとなってい
ますのは毎月第二水曜日に行っ
ている"K・F・S マンスリーサロ
ン"ではないかと思えます。
前座に会員スピーチとして会員
のファッション情報や研究発表が
あり、続いて有名講師を招いての

講演会があります。その後、懇親
会を持って交友を広めています
がこのK・F・S マンスリーサロ
ンは、一般の方にも開放していま
すので（一般の方は一、〇〇〇円）
参加して頂きたいと思えます。K
・F・S マンスリーサロンの御案
内は"神戸つ子"の、K・F・S
のページを御覧下さい。現在、理
事会ではマンスリーサロンのより
一層の充実に取り組んでおります
し、今春には"ファッション講座"
（女性のための）あるいは"市民
のための"を開講予定（四月・
五月）です。これらの各種事業を
行なうときは、会員でプロジェクト
チームを組んで企画、運営され
ます。

最近"K・F・S"に入会したい
が、どのようにすれば入会出来る
か"との問合せが事務局によく掛
ってくるようになって来たけれど
K・F・Sは、神戸市の主催の
"神戸ファッション市民大学"の
卒業生で結成されたもので（現在
三期生までの卒業生約三百五十名
の内、百数名加入）あるために一
般の方は加入できないようになって
います。今秋開かれる予定の
"市民大学"を受講の上、是非、
参加して下さい。これだけの人材
と交友できるグループは、とても
幸せといえるのではないでしょう
か。

経済ポケット ジャーナル



★「神戸キユーバ経済懇話会」が発足

一月十七日、神戸商工会議所や地元の貿易業界の代表ら十八名による「神戸・キユーバ親善経済使節団」

（团长）宮崎辰雄神戸市長

がキユーバへ出発、二十七日に帰国した。キユーバでは、当地の商工会議所をはじめ貿易業界の関係者との間で神戸・キユーバ両国間の今後の貿易拡大についての話し合いがもたれた。

その結果、二月三日、神戸商工会議所は「神戸・キユーバ経済懇話会」の設置を決めた。

神戸・キユーバ間の貿易では、機械などの工業製品を神戸が輸出し、キユーバからは砂糖、コーヒード豆、冷凍エビなどの一次産品を輸入。キユーバ船の入港も多く、今年に入ってから一隻が入港している。

一方、神戸市ではキユー

バ領事館を誘致すべく、外務省に働きかけているが、これが実現すれば、わが国初のキユーバ領事館となる予定。

★輸出促進を目指して「神戸貿易デザイン展」開催

一月二十日から三日間、神戸国際会館五階ホールにて「第20回神戸貿易デザイン展、海外収集見本展」が



展示会場

開かれた（主催／神戸市・神戸トレーダーズ協会）。

今回は神戸市の八社をはじめ、兵庫県、埼玉県、静岡県、岐阜県、滋賀県、鳥取県、岡山県から合計六十

四社が出品したほか、西ドイツ、アイルランド、フィンランド、オーストリア、スウェーデンなどヨーロッパのすぐれたデザイン商品百五十点余りも展示された。

また、二十一日には、同展に出品しているメーカーと神戸トレーダーズ協会々員のデザインナーら三十名が「未来の商品」を探るシンポジウムを開き、二十二日には出品商品のなかから、デザイン、機能性、実用性、耐久性、価格などを考慮し優秀商品十点（金賞五、銀賞五）が表彰された。神戸市からは「ますみエ芸」（七宝ペンダント、七宝額）が銀賞に選ばれた。

★神戸タワーサイドホテルがビジネスホテルに

生田区波止場町中突堤入口にある「神戸タワーサイ

ドホテル」の経営が、二月から神戸市民生活協同組合（理事長／宮崎辰雄神戸市長）に移った。

同ホテルはこれまで株式会社神戸ホテル阪神が経営に当たっていたが、経営難のため市民生協組が後を引き受けたもので、客室の料金を現行より引き下げたり、六階の結婚式場を廃し、各種の集会場や宴会場を利用するなど、神戸を訪れる人が気軽に利用できるビジネスホテルに衣替えした。

★帝国酸素神戸本社が移転
帝国酸素株式会社（ジャック・コンセイユ社長）の神戸本社がこのほど移転し三月一日から業務を開始した。新事務所／郵便番号六五一、葺合区磯辺通二丁目二番十五号、電話（〇七八）二五一―五九四一番

★ KOBE オフィスレディ★



黒川 敦子さん（垂水区）
有限会社スギヤ事務センター

朗らかであたたかい感じのひと。仲々のスポーツマンで、スキーは経歴8年のベテラン。テニスも好きだが場所をとるのが大変とか。目下、パルモアで英語のレッスン中。週5日、仕事が終ってから通学。2年目になるが非常な頑張り屋だ。将来は英語を生かして何かやりたいな……との夢がある。それと外国旅行。建国二百周年祭のアメリカへ行ってみたい……。（県立星陵高校卒業）



き
も
の
と
細
貨

おんがら屋

東京

日本橋東急店
池袋バルコ店

東京都中央区日本橋通一丁目九二
(四階和装名家街)
東京都豊島区南池袋一丁目二八二

電話 〇三二二一〇五一(代)
(内線一九四)
電話 〇三九八七〇五六一(直)

神戸

本部・仕入部
さんちか店

神戸市東灘区青木五丁目一五・一九
市街地改造により工事中 昭和五十二年未定
神戸市生田区三宮町一丁目一

電話 〇七八四五一五二九〇(代)
電話 〇七八三三一一七〇〇

銀座コア店

東京都中央区銀座五丁目八一〇
(四階きものコア)

電話 〇三五七三二九八(代)

渋谷東急店

東京都渋谷区道玄坂二丁目二四一
(五階和装名家街)

電話 〇三四七七三〇〇九(直)

日本橋東急店

東京都中央区日本橋通一丁目九二
(四階和装名家街)

電話 〇三二二一〇五一(代)

MAKE UP WITH ROYAL

魅力アップは これで

世界超一流
ヨーロッパ・エレガンスを代表する

フレームコレクション



神戸眼鏡院

元町店・元町3丁目 ☎(321)1212代表
三宮店・さんちかタウン ☎(391)1874~5

元町店は毎水曜日が休みです
三宮店は第2、第3水曜日が休みです

三宮店(さんちかタウン)は装いを新たに
して、ご来店をお待ちしております。

レーザー光

諸岡 博熊

△神戸市企画局参事△

明日の文化をめざして、科学と芸術の融合と称せられるレーザー光線と音楽の組み合わせによる映像をドーム状天井に演出するレーザー光が京都で日本初公開となった。おそらく本誌が発行されるころ、新聞紙上をにぎわしていることだろう。

これは、レーザー光線を用いて空中に三次元の映像——ホログラフイといわれるもので、被写体にレーザーを投射してその回折光を乾板に記録されたホログラムを、レーザー光線によって、像を再生したもの。手前に実像、後には虚像が結像し、立体感に富んだ三次元像を得る。

大阪での万国博では、ソ連館、英国館、フランス館、三菱未来館で初期のホログラフイが展示されていた。また、このたびの沖繩の海洋博でも、三菱未来館がホログラフイを大々的に展示していた。

これらのホログラフイは、静止した状態であるので、レーザー光では、動的なカラフルな映像、しかも光の像が中空に立体的に見えるよう、ドーム状の天井スクリーンに投射される。リクライニング・シートに座った観客は、その映像を浴びるように感じ、音楽に

あわせて緩急自在に変化する映像は、観客の心深く影響を与え、その情緒にまで効果を及ぼすものとなっている。

今から約十五年前、レーザー光線の発生装置がMITで開発されてから、急速に各方面で応用され宇宙、天文、物性、原子といった物理学での利用から医学まで実用化されている。

昭和四十八年、ロスアンゼルスにあるグリフィス天文台のプラネタリウムドームを利用して、レーザー光線の実に美しい種々の色彩の光線を音楽にあわせ、全く誰にも想像もつかない幻想の立体世界を出現させるレーザー光が初公

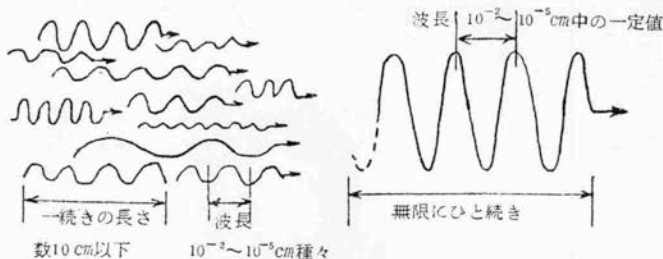


図1. 光の概念図

図2. レーザー光の概念図

光とレーザー光の物理的相異を最も明解に表現するのが上の概念図である

開された。

レーザー光は約一時間にわたって、七〇八曲の音楽にあわせてドームの天井にサイケデリックな色模様が織りなされ、赤、黄、緑、青の四色が立体的に交錯し、観客が音響効果とあいまって、その映像のなかに包みこまれてしまったような錯覚に落ち入る。映像の動きは極めて複雑、かつサイケの時には投げ網をを広げたように、時には真綿を引きのばしたように、立体的に球面天井を荒れ狂う相様を示す。

このレーザー光は、目下アメリカで爆発的な人気をよび、サンフランシスコ、ニューヨーク、デンバー、サンディエゴ、マイアミ、トロント、シアトル、アメリカ、カナダをあわせ八カ所のプラネタリウムに設置された。

日本では、日本文化財団が企画して、京都にある近畿放送に、レーザー光センターが開設される

(注) 光とレーザー光線の違い
図に示すように、物理的特性からいえば、ある意味では、雑音のような光の集団が普通の光——電灯は、スイッチを切るまで一様な光を出し続けているようにみえるが、図(一)のように、雑多な光の集団である。ところが、図(二)のように、レーザー光は全体が一つの成分で一定波長で位相が連続している。つまり、無限にひと続きの波動で、人工的に光の純粋な成分だけを連続してつくり出したものである。